

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年7月13日

**【四半期会計期間】** 第42期第3四半期(自平成24年3月1日至平成24年5月31日)

**【会社名】** 株式会社ブラップジャパン

**【英訳名】** PRAP Japan, Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 杉田 敏

**【本店の所在の場所】** 東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル

**【電話番号】** 03(4580)9111

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役管理本部長 泉 隆

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区赤坂一丁目12番32号 アーク森ビル

**【電話番号】** 03(4580)9111

**【事務連絡者氏名】** 専務取締役管理本部長 泉 隆

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第41期 第3四半期 連結累計期間	第42期 第3四半期 連結累計期間	第41期
会計期間		自 平成22年9月1日 至 平成23年5月31日	自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日	自 平成22年9月1日 至 平成23年8月31日
売上高	(百万円)	3,080	3,195	4,063
経常利益	(百万円)	370	339	427
四半期(当期)純利益	(百万円)	172	162	171
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	203	187	196
純資産額	(百万円)	2,268	2,319	2,223
総資産額	(百万円)	3,220	3,516	3,348
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	41.67	40.72	41.89
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	68.3	64.1	65.2

回次		第41期 第3四半期 連結会計期間	第42期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年3月1日 至 平成23年5月31日	自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	14.56	22.36

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第41期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

また、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の日本国内経済は、東日本大震災の影響を受けた景気低迷が、復興需要や各種政策によって持ち直し傾向にあるものの、欧州の金融不安に伴うユーロ安、長期化する円高の影響などから、日本経済全体の先行きも依然不透明であり、引き続き企業を取り巻く環境は厳しい状況となっています。

PR業界におきましては、企業・団体・行政機関等が広報活動を経営・事業戦略の一環として拡充する動きは続いています。その一方で、厳しい経済環境が広報予算抑制に影響を与えるなど、慎重な姿勢が続いていることで、PR業界全体も依然厳しい環境下の中での取り組みが求められています。

このような環境下、当社グループは新規営業および既存顧客への営業深耕を深め、受注活動を強化してきました。日本国内においては、前期を上回る問い合わせ、引き合いがあり、ヘルスケアやIT関連企業など、市場成長が期待される新規分野でのリテナークライアントを獲得したほか、既存顧客における新たなプロジェクト業務など着実に受注件数を増やしています。また、依然としてデジタルインフラを活用した広報施策やそれらのコンサルティング業務への引き合いが多いなかで、日本の有力サイトへのプレスリリースの配信・掲載サービスを行う当社のサービス「デジタルPRプラットフォーム」は、相次いで年間契約を獲得するなど受注件数を堅調に伸ばしています。

一方、連結子会社においては、中国子会社2社が自動車、アパレル、家電などの新規プロジェクトを獲得、既存クライアントの契約延長を受注するなど、安定的に推移しています。中でも、中国で多様化するデジタル関連の市場ニーズに対応することを目的とし、北京オフィスに「インターネットマーケティング部」を新設しました。サイト制作からSEO/SEM業務、ソーシャルメディアマーケティングまでをカバーしています。また、昨年末に発表した中国版Twitter「微博（ウェイボー）」の企業活用時におけるコンサルティングサービスも好調です。

なお、当社はオフィス環境の整備による業務効率の向上を目的に、平成23年12月に本社移転を行っています。これに伴い、第1四半期および第2四半期において、事務消耗品費および減価償却費の増加を主な要因として、前年同四半期比で販売費及び一般管理費が63百万円増加しています。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は3,195百万円（前年同四半期比3.7%増）、営業利益は345百万円（前年同四半期比5.9%減）、経常利益は339百万円（前年同四半期比8.6%減）、四半期純利益は162百万円（前年同四半期比5.6%減）となりました。

部門別の概況は次の通りです。

#### 〔コミュニケーションサービス部門〕

コミュニケーションサービス部門におきましては、当第3四半期連結累計期間は、新規レギュラークライアントとして製薬、人材業、鉄道、商業施設、通信機器、アパレルなどの企業を獲得しました。また、新規および既存顧客のプロジェクト業務として食品、消費財メーカー、飲料、化粧品、ネット事業、製薬、電気、教育関連団体などの企業を獲得しました。

この結果、コミュニケーションサービス部門の売上高は2,930百万円（前年同四半期比1.1%増）となりました。

#### 〔クリエイティブサービス部門〕

クリエイティブサービス部門におきましては、当第3四半期連結累計期間は、主に消費財メーカー、飲料のPRイベント、地方自治体のブランディング業務、医療機器メーカーの新製品発表会、外資系保険会社のイベントなどを受注しました。また印刷物関連の業務におきましては引き続き、ヘルスケア関連会社、コンサルティング会社、公営事業関連、鉄道会社の刊行物などを受注しました。

この結果、クリエイティブサービス部門の売上高は、264百万円（前年同四半期比45.6%増）となりました。

## (2) 財政状態の分析

### (流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、2,664百万円と前年同四半期連結会計期間末に比べ39百万円の増加となりました。これは、本社移転に伴う固定資産の取得及び事務所移転費用の発生、仕入債務及び未払法人税等の減少にともなう現金及び預金が142百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が164百万円増加したことが主な要因であります。

### (固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、851百万円と前年同四半期連結会計期間末に比べ255百万円の増加となりました。これは、のれん10百万円、長期性預金20百万円が減少したものの、本社移転に伴い建物及び構築物55百万円、投資有価証券25百万円、差入保証金180百万円が増加したことが主な要因であります。

### (流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、752百万円と前年同四半期連結会計期間末に比べ230百万円の増加となりました。これは、未払費用88百万円、未成業務受入金71百万円、未払法人税等54百万円が増加したことが主な要因であります。

### (固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、444百万円と前年同四半期連結会計期間末に比べ14百万円の増加となりました。これは、主に退職給付引当金及び役員退職慰労引当金の増加によるものであります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、2,319百万円と前年同四半期連結会計期間末に比べ50百万円の増加となりました。これは、その他有価証券評価差額金が13百万円減少したものの、利益剰余金が67百万円増加したことが主な要因であります。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間における四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	18,716,000
計	18,716,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年7月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,679,010	4,679,010	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	4,679,010	4,679,010		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年3月1日～ 平成24年5月31日		4,679,010		470		374

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成24年2月29日現在の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成24年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 682,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,995,900	39,959	
単元未満株式	普通株式 610		
発行済株式総数	4,679,010		
総株主の議決権		39,959	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己株式が80株含まれております。

【自己株式等】

平成24年2月29日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ブラップジャパン	東京都港区赤坂 1-12-32	682,500		682,500	14.59
計		682,500		682,500	14.59

(注) 上記の表は、完全議決権株式(自己株式等)の明細であります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年3月1日から平成24年5月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年9月1日から平成24年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年5月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,749	1,907
受取手形及び売掛金	530	567
有価証券	17	17
たな卸資産	109	74
繰延税金資産	61	61
その他	45	36
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	2,513	2,664
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	22	85
車両運搬具（純額）	4	3
その他（純額）	19	20
有形固定資産合計	46	109
<b>無形固定資産</b>		
借地権	0	0
ソフトウェア	15	13
のれん	24	16
無形固定資産合計	40	30
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	135	179
差入保証金	347	270
繰延税金資産	215	212
その他	49	48
投資その他の資産合計	748	711
固定資産合計	835	851
資産合計	3,348	3,516
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	291	184
未払法人税等	45	86
未成業務受入金	65	130
賞与引当金	53	109
事務所移転費用引当金	63	-
その他	165	240
流動負債合計	685	752
<b>固定負債</b>		
退職給付引当金	122	124
役員退職慰労引当金	314	318
その他	2	1
固定負債合計	438	444
負債合計	1,124	1,197

	前連結会計年度 (平成23年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	470	470
資本剰余金	374	374
利益剰余金	1,817	1,887
自己株式	434	434
株主資本合計	2,228	2,298
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34	37
為替換算調整勘定	10	6
その他の包括利益累計額合計	45	43
少数株主持分	41	63
純資産合計	2,223	2,319
負債純資産合計	3,348	3,516

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成23年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)
売上高	3,080	3,195
売上原価	2,196	2,270
売上総利益	883	925
販売費及び一般管理費	516	579
営業利益	366	345
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	2	2
その他	3	2
営業外収益合計	6	4
営業外費用		
為替差損	-	3
投資有価証券売却損	0	-
投資有価証券評価損	-	6
自己株式取得費用	1	-
出資金運用損	1	1
営業外費用合計	2	11
経常利益	370	339
特別利益		
有形固定資産売却益	1	-
貸倒引当金戻入額	0	-
特別利益合計	2	-
特別損失		
有形固定資産除却損	0	2
災害による損失	1	-
事務所移転費用	-	13
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	31	-
特別損失合計	32	15
税金等調整前四半期純利益	340	323
法人税、住民税及び事業税	143	141
法人税等合計	143	141
少数株主損益調整前四半期純利益	196	182
少数株主利益	24	19
四半期純利益	172	162

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成23年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	196	182
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	2
為替換算調整勘定	2	7
その他の包括利益合計	6	5
四半期包括利益	203	187
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	180	165
少数株主に係る四半期包括利益	23	22

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	該当事項はありません。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日)	
(会計方針の変更)	該当事項はありません。
(会計上の見積りの変更)	該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日)	
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年9月1日 至 平成24年5月31日)	
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成23年5月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)	
減価償却費	11百万円	減価償却費	40百万円
のれんの償却額	7百万円	のれんの償却額	7百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年9月1日至平成23年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年11月26日 定時株主総会	普通株式	90	21	平成22年8月31日	平成22年11月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成22年11月10日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得を実施いたしました。

平成22年11月11日に大阪証券取引所のJ-NET市場において、自己株式230,000株(当社普通株式、1株につき520円、取得総額119百万円)を取得いたしました。

また、平成23年2月10日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得を実施いたしました。

平成23年2月14日から平成23年5月31日までに大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)において、自己株式99,400株(当社普通株式、取得総額79百万円)を取得いたしました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において、自己株式数は682,580株となっております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成24年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月29日 定時株主総会	普通株式	91	23	平成23年8月31日	平成23年11月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年9月1日至平成23年5月31日)

当社グループは、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業のみの単一セグメントであるため記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成24年5月31日)

当社グループは、企業の広報活動の支援・コンサルティング業務を中心としたPR事業のみの単一セグメントであるため記載を省略しております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を行っていないため、該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年9月1日 至平成23年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	41円67銭	40円72銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	172	162
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	172	162
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,136	3,996

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年7月13日

株式会社ブラップジャパン

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 秋山 茂盛

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 加藤 雅之

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ブラップジャパンの平成23年9月1日から平成24年8月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成24年3月1日から平成24年5月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年9月1日から平成24年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ブラップジャパン及び連結子会社の平成24年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。